動絵狐狸達引（1933）

メディア 映画　アニメ
ジャンル コメディ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 11分
初公開日 1933/12/31
公開情報 東和商事映画部

【解説】
　東宝映画の前身組織のひとつP･C･L（写真科学研究所）が1933年に製作した、全11分のトーキーアニメ。
　ある夜、豪傑そうな侍に化けた狐が、古寺にやってくる。侍の正体を知らぬままイタズラ心を生じた子狸は、一つ目小僧などに化けて侍を脅かすが、相手はひるまない。子狸から応援を請われた親狸は、強力な変幻技で侍に迫るが、大した効果はない。やがてマシンガンまで持ち出した侍に親狸は追いつめられてしまう。絶対の窮地に陥った親狸だが、その時、子狸が機転を利かせて。
　1931年の創設時からアニメ映画の可能性を模索していたP･C･Lが初めて製作した劇場アニメ。企画を推進したのは、以前は松竹の現像部長だった増谷麟。増谷は松竹蒲田撮影所の字幕描きの経験もあるスタッフ・大石郁雄を招聘し、当時としてもモダンでハイセンスな本作の作画を担当させた。時代を超えて観客を笑わせる、ナンセンスギャグアニメの秀作といえる。

【クレジット】
演出 大石郁雄
音 山口淳

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.